

令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	巨大地震の裏側～巨大化させないメカニズム
研究代表者	日野 亮太 (東北大学・大学院理学研究科・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>2011年東北地方太平洋沖地震でM9級の超巨大地震が発生したのは中部に限られ、北部や南部では生じていない。応募者はその理由について、自発的周期的すべり(SPSS)によって歪欠損が低下し、プレート境界浅部のすべり(STT)が起きにくくなるためである、という仮説を立てている。本研究によって、東北沖の日本海溝に対する海底観測、海底下地質調査及び海底堆積物調査を組み合わせ、広い時空間スケールでの断層挙動に関する観測事実を得ることで、当該仮説の検証を行うこととしている。</p> <p>本研究の包括的な観測によって、巨大地震や津波地震が発生するプレート境界の状態についての新しい知見が得られる可能性が高く、学術的な意義は高い。また、海溝型地震が巨大化する地域としない地域とがあるのかどうか、あるとしたらそれはどういうメカニズムでそのような差が生じるのかを明らかにできれば、巨大化地震が起こりやすい地域と起こりにくい地域の峻別が可能になることから、防災や減災の面で非常に大きな波及効果が期待される。</p>